

事例紹介大学等のプログラム概要

【近畿地区】

1. 大阪大学

プログラムの名称	市民社会におけるリーダーシップ養成支援 －「阪大スタイル」育成プログラムの開発
(プログラムの概要) 大阪大学は、適塾と懐徳堂を源流とし、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに「教養・デザイン力・国際性」を教育理念とし、市民社会にロイヤリティをもち、リーダーシップを発揮する「阪大スタイル」の人材育成を目指している。今回の取組は「市民社会でのリーダー」開発を目指し、まずクラスやサークルのリーダーとなる学生を重点的に支援し育成し、この学生が核となり支援の輪が連鎖上に広がることにより、学生全体の意識の向上とレベルアップを図るためのプログラムを開発し実施する。対象は各学年で50名以下、総数200名以下とし公募と推薦により選定する。このプログラムの実施は学生部学生支援課およびキャリア支援室の事務職員が主体となって担当し、大学教育実践センターやコミュニケーションデザイン・センターの教員が積極的に協力する。また、プログラム開発には人材開発で実績のある民間コンサルティング企業のノウハウを利用する。	

2. 同志社大学

プログラムの名称	地域コミュニティによる学生支援方策 －京町家を拠点にした異世代協同プロジェクト
(プログラムの概要) 本学今出川校地の所在する「京都市上京区」は、有形無形の歴史的・文化的財産に加えて、町内会の自治等、伝統的に強い地域力を有している。その特性を活かし、地域ぐるみで多様な感性の行き交う「学生支援」を行なう。学生と市民が運営する町家では、「子ども」「学生」「大人」「高齢者」が入りし、世代混合のサークル活動や議論の場が展開される他、学生が「異世代と協同」しながら、「歴史・文化・伝統産業」等の地域財産を発掘し、現代の生活の中に継承していくことに関わる文化プロジェクトを展開していく。また、学生が地域コミュニティの住人として町家で生活することによって、生活上のルールや風習やしきたり等を学び、共に実践していく。「歴史文化の担い手」としての自己や「社会の構成員」としての自分の役割を意識することに繋がる「地域教育」の中で、現代の学生が実社会に出て行くために必要な「ライフスキル」の獲得を促進する。	

3. 京都経済短期大学

プログラムの名称	地域の中で世界を感じる －異世代・異文化交流を通じた留学生の活躍に向けて
(プログラムの概要) 本学では、平成6年度以降、地域住民を対象に留学生による語学講座を開講してきた。受講生は延べ2千人を数え、講師を務めた留学生も80人を超えている。この講座を通して生まれた地域交流を軸に、平成16年度から「けいたん留学生交流会」を開催し、留学生が母国の音楽・衣装・言葉遊び等を紹介している。本取組では日本人学生や地域住民が日常的に国際交流を実感できる機会を提供している。一方留学生にとっては企画や運営の過程を通じて、日本語能力や社会性を高めるきっかけとなっている。以上は留学生が国内で活動するものであるが、学生が海外（ネパール）に赴き、学校建設に取組む活動も行っている。 今回申請するプログラムでは、①交流会の規模拡大、②ネパール教育支援の充実、③留学生の精神的な支援の3点を検討している。特に③では、卒業後も在留している留学生卒業生による学生相談の実施や、ネットを使った留学生同士の交流等を推進する。	